説教余滴 2020 年 5 月 31 日《ガーシュイン》

一枚のＣＤを愛聴しています。題して「ザ　グロリー　オブ　ガーシュイン」。たまにしか聴く機会はありませんが、すでに四半世紀を経ているはずです。ビートルズと深い関係のあるジョージ・マーティンが、企画・制作プロデューサーしました。
ラリー・アドラーというアメリカのハーモニカ奏者の 80 歳の誕生日を記念して、ガーシュインの名曲を演奏しよう、との呼びかけに応えた 17 人の演奏家が、ガーシュインの楽曲を一曲づつ歌います。そのすべてにラリー・アドラーがフイーチャーされています。絶妙な演奏、歌い手の名前は、ほとんど初耳ですが、楽しみました。ピーター・ガブリエル、スティング、エルトン・ジョン、ボン・ジョビ。

中学時代、音楽部のコーチを務めてくださった南部信喜？先生がある時、「ラリー・アドラーから、米軍兵士慰問のため東京を通過するとの知らせがあり、会いに行く」とのことでした。アメリカ生まれ、世界一のハーモニカ奏者。イギリスの作曲家ヴォーン・ウイリアムスが、「ハーモニカと管弦楽のためのロマンス」を彼のために書いています。

ジョージ・ガーシュインは、偉大なアメリカ人作曲家。1898 年 9 月、ニューヨーク生まれ。
早くから天才を発揮、16 年に作曲を始め、20 年には「スワニー」がアル・ジョルスンの歌で発売、ＳＰ250 万枚を記録。24 年には、ジャズとクラシックを融合させた大曲「ラプソディー・イン・ブルー」を作曲。カーネギー・ホールで上演、名声を確立。35 年にはオペラ「ボギーとベス」を発表．37 年、脳腫瘍のため死去，38 歳。
若いころ、ラリーはガーシュインのピアノで演奏して回っていたそうです。

このＣＤは「ガーシュインとラリ・アドラーとジョージ・マーティンへのリスペクトが可能にした、20 世紀のポップスが凝縮」（中川燿）された貴重な一枚です。